

に出会った先生に刺激を受け、子どもの将来の人生を後押しできる教師は魅力ある職業であると感じました。

「体育教師になりたい」と思い、日体大に進学しました。在学中にさらにバスケットボールを学び、指導者として教師になりたいと思うようになりました。

大学卒業後は、静岡に戻り、高校の講師を続けながら、教員採用試験を受けていました。そんな中、バスケットボールを指導したいという思いだけでは、自分の将来に不安を感じるようになりました。そんなとき、知人の紹介で特別支援学校の講師を始めました。初めは「特別支援学校?」「障害のある子どもが通っている学校」ぐらいしか知りませんでした。しかし、私の教育観が大きく変わる出来事がありました。担当する自閉症の生徒に当初は振り回されていました。しかし、障害特性を知り、その生徒の目線に立って支援することで、生徒が課題を達成できたときに教育にやりがいを感じました。また、そのときに見せた生徒の笑顔は今でも忘れられません。

「特別支援学校の教師になりたい」と強く思い、六回の受験でやっと採用されることになりました。高校の教員採用試験を合わせると、十三回の受験の末に合格することができました。本当に長い道のりでした。し

かし、人生には「遠回り」というものはなく、そこでしか得られない経験があります。私は、家族や友人の大切さに改めて気付くことができました。また、どの学校に行っても日体大の先輩や後輩がいました。先輩からは、いつも気にかけていただき、助けていただきました。後輩からは、良い刺激をもらいました。日体大を卒業し、強い絆を感じました。

私の今までの人生は、このように紆余曲折し、特別支援教育に魅了され今日に至りますが、今の目標は、特別支援教育のプロフェッショナルになることです。産んだ子に障害があり、最後の砦となるのが特別支援学校です。その教師として、自分の人生を懸けて支援・指導して行きたいです。



中学教員となって



伊東市立対馬中学校
鷺巣 大志 (平27卒)

私が中学の先生になりたいと思っただきっかけは、中学時代にお世話になった恩師の影響からです。私は中学時代、野球部に所属し、部活動を通して体力面と精神面を鍛えることが出来ました。その時にお世話になった顧問の先生がとても熱心な先生で、私達生徒のために本当に熱心に指導してくださいました。そんな先生に自分もなりたいと思ひ体育の教員を多く輩出している日本体育大学への進学を決めました。

大学を卒業してからは、一年間非常勤講師を経験し、本年度から中学校の新規採用職員として勤務しています。だんだんと伊東市での生活、教員としての生活に慣れてきました。四月当初はとても大変でした。体育の授業では、時間配分や指示の出し方、そして授業の組み立て方が分からず、大変悩んだ時期がありました。初発問や主発問、評価や支援の仕方が分からず、授業を行う以前でつまづいていました。一年経つてようやく授業の進め方にも慣れてきました。まだまだ力不足なので今後も勉強と経験を重ねて行きたいと思ひます。

学級担任では、三十四人のクラス

を持たせていただいています。一人ひとり、考え方や特徴が違い、一つにまとめる大変さを痛感しました。生徒指導や学習指導と仕事の多い担任ですが、その分、多くの感動や楽しさを感じることを知ることができました。これからは多くの感動や楽しみに出会う為に、生徒一人ひとりに寄りそって行ける担任になりたいと思ひます。

「中学校教員」とは、とても大変な仕事ですが、中学校教員だからこそ、得られたことや感じるものがあのだと実感しています。これからも日々精進し、静岡県の子ども達が活躍して行けるように頑張りたいと思ひます。

